



TAWAN INGNICA News



JICA技術協力プロジェクト
ニカラグア国、北大西洋自治区、
プエルトカベサス市
CDRのホームページ：現在作成中

Proyecto de mejoramiento del nivel de vida a través del fortalecimiento de la producción agropecuaria de las comunidades indígenas y Étnicas de Puerto Cabezas en Nicaragua

プエルトカベサス先住民コミュニティ生計向上計画

2010年9月20日初刊

第1号 (2010年9月20日発行)

はじめまして、TAWAN INGNICAです

TAWAN INGNICAとは「ミスキート語」で「民衆の光」と言う意味です。

記事内容：

はじめまして、TAWAN INGNICA です 1

農村開発委員会 2

活動現場紹介（タスパブリ村） 2

講習会の食事は持ち寄りで 2

堆肥小屋完成 3

ラジオ放送開始 3

カリブ海の青い空 3

みなさん始めまして、私たちは2008年2月から4年間の計画で、ニカラグアのカリブ海側の町プエルトカベサス市の先住民たちの生計向上を目指して活動をしています。

ニカラグアの多くの国民は、メスティーソと呼ばれる混血の人が多いですが先住民族が4%住んでいます。この先住民のほとんどが、我々の活動現場であるRAAN（北大西洋自治区）に住んでいるミスキート族です。そして彼らは、独自の言語である「ミスキート語」を話します。学校ではスペイン語の授業をしていますが、友達と遊ぶときや家の中ではミスキート語を使っています。

そして彼らの多くは自給自足の生活をしていますが、この地区の大半の土地は農業にむいていないため、家の畑は、徒歩で2~3時間ほどはなれた川沿いの土壤条件の良いところに持っていますが、主食である米、豆やイモ類を作る程度で野菜は作っていません。したがってほとんどの野菜のは500Kmの道を太平洋側から運ばれてきます。

したがって農産物の値段は、首都よりも販売価格は高くなります。さ

北大西洋自治区は、ニカラグアの北東部に位置し、全国土地面積129,494km²の24.8%と最も広い面積32,159km²である。首都是プエルトカベサス市です。



らに長距離の輸送のため品質が落ちています。もし彼らが自分の家の近くで野菜を作り、たくさん出来た野菜を町で売ることが出来れば、どれだけ彼らの栄養状態の改善と、生計が向上するでしょうか。

そのためには、彼らの生活スタイルと農業生産環境を知り、どうしたら生計が向上するか、お互いに考えていくことが第一です。我々は、難しい技術ではなく地元の資源を有効に利用した技術をより多くの農民に普及する活動を市の農村開発委員会を中心として行っています。

またこの活動はこの地区の抱える多くの問題を改善するために、長く続ける必要があります。そのための組織活動の強化も目的となっています。



農村開発委員会とTAWAN INGNIKA



プエルトカベサス市では、農村地域に住む住民の生計向上を目指して、農村開発委員会を2007年に設置しました。この委員会は、市役所の自然資源環境部を中心に、BICU—CIUM大学、URRACAN大学、PanaPana(NGO)の各機関で構成されています。そしてそのプロジェクト実施チームがTAWAN INGNIKAで、JICAは2名の専門家を派遣し委員会の安定運営と、普及技

術の指導で協力しています。

各組織からカウンターパートを選出し現在6名が活動しています。

このプロジェクト・ロゴは農村開発委員会で考案したもので、「明るく降り注ぐ太陽の下、伝統的な家の周りに家畜と作物がありそれをしたから支えている手が我々である」と言う意味です。

左のマークは各組織のシンボルマークです、左よりプエルトカベサス市役所、BICU大学、URACCAN大学、PanaPana、JICA



活動現場紹介

タスバ・プリ地区スムビラ村

プロジェクトの活動地域は、プエルトカベサス市にある北海岸地区、南海岸地区、北平原地区、南平原地区、タスバ・プリ地区の5地区のうち、内陸部に位置する北平原地区、南平原地区、タスバ・プリ地区の3地区です。

タスバ・プリ地区は比較的土壤も豊かで大きな農園を持つ農家もいますが、多くの農家は小さな畑で自家消費する野菜を細々と作っているだけで、伝統的な焼畑農耕を続ける農家が多いです。もちろんそんな畑に植え付ける作物も、彼らの主食であるトウモロコシ、豆やイモ類が中心で、野菜や果樹を作ることはあまりしていませんでした。しかしこの地区はマナグアへ通じる幹線道路沿いにあるため、物流にも恵まれていて、生産物をプエルトカベサス市に運ぶ事も容易です。この地区はプロジェクト開始当初からの指導地区で、すでに5名の農民プロモーターが育っており、この写真はその一人「ヘスス」さんの畑の写真です。彼はまず我々から得た技術を自分の畑でためしてみて、その成果を実感して周辺の農家に指導をし始めました。

彼の畑に我々の指導した堆肥を施用して実験したところ、今まで収穫できなかった野菜が収穫できるようになったり、収穫量が著しく増加しました。



いまでは彼は自分で新しい野菜の種を探ってきて、栽培できるかを試しています。

家の周りにも薬用植物や観賞用の草花を植えるなど、今までの生活習慣を変えようとしています。

そんな彼の姿を見た周辺農家は、こぞって彼の指導を受けに来るようになりました。

そして彼は、我々の新しい地区での説明会にも参加し参加の呼びかけも積極的にやってくれるようになりました。

彼のような農民プロモーターを数多く育成することが大切です。



講習会(農民プロモーター研修)の食事は材料の持ち寄りで!



この日の料理はルックルックという肉とイモ類を塩味だけで煮込んだスープとご飯でした

我々が開催する講習会は、農民の生活の場での開催を基本としています。近いところで1時間、遠いと3時間もかかります。そんな小さな村でも講習会には20名程度は集まってくれます。そしてこの講習会は半日以上かかる内容で、朝9時ごろから三時ごろまでかかります。そんな場合他の多くの支援団体が開催する講習会では、10時のおやつと昼ごはんを出すのが当然のようになっており、食べ物を目当てに子供までが集まっています。しかしこの方法では、援助団体がいなくなると講習会は開催で

きなくなってしまいます。我々はそのことを防ぐために、「おやつは出さない」、「食事を材料持ち寄り」というスタイルを構築しました。最初は食べ物目当ての人が「けち」とか「もう来ない」とか言って去って行きましたが、講習の内容を理解し、その成果を知るにしたがって参加者の減少は止まりました。そしていまでは皆の家から食事の材料を持ち寄り地元料理を作って食べています。

いつの日か皆の収穫物だけで料理ができる日がやってくるでしょう

堆肥小屋完成間近

プエルトカベサス市はカリブ海に面した町で、魚介類は豊富に取れます。そして市内には5件ほどの魚介類の加工工場があります。ここでは海老や蟹、魚の切り身を作っています。

当然あらが出るのですが、今まで彼らはそれをゴミとして捨てることしか考えていませんでした。我々はこの捨てられるゴミに注目して、魚のあらと市場から出る野菜くず、街路樹などの剪定された枝を材料に堆肥を作ることをはじめました。最初はかなり強いに

おいがして、大変でしたが、要領が分かってくると徐々に出来栄えも良くなっていました。ゴミを出していける人にすれば、こんなもので何が出来るのかと興味津々でしょうがこれが案外良い成果が出るのです。ますます増加するゴミのために、大きめの堆肥小屋をBICU大学の圃場に新築しました。

そしてここで出来た堆肥を、周辺農家に配布により大きな成果を出してもらいたいです。



ラジオ放送開始！！

この町にはFM放送局がたくさんあります。そのほとんどが宗教の放送ですが、音楽や町の情報を流す放送局もあります。そんな中の一局に、プロジェクトの活動を伝える番組を持つことが出来ました。毎週月曜と金曜の夕方4時からの1時間です。スペイン語とミスキート語の二言語放送をし

ています。番組名は「TAWAN INGNIKA」です番組の内容は農民への基本的な農業情報から、生活改善の方法まで幅広い話題です。ディスクジョッキーはプロジェクトのカウンターパートが勤めています。そしてこの日の放送には、ヒノテガより招いた「針なし蜂」の専門家が出演してくれました。



カリブ海の青い空 編集者の独り言

これから不定期ですが、我々のプロジェクトの活動を紹介する機関紙を発行します。内容はホームページと重複するかもしれません、このような紙面にすることでより多くの皆さんに我々の活動を知って

いただけすることを希望しております。

今日もカリブ海の空は晴れ上がり、青い空を映して海もとてもきれいな色をしています。